



一般財団法人

# ふくしま未来研究会

## 30年後の福島を、元気にする。

ふくしま未来研究会は、「福島を元気にする活動」をサポートします。



## 助成金事業

### ①プロパー助成事業(創設以来)

・プロパー助成 139件 571,521千円

### ②パブリック・リソース財団とのタイアップ助成事業

- ・「意志ある寄付で社会を変える」をミッションとする寄付推進組織パブリック・リソース財団と提携。
- ・30年後の福島が元気であるような活動をする団体・企業を対象に、現在まで 352 百万円の基金投入、2015年度は 13団体 / 22,450千円、2016年度は16団体 / 27,861千円を助成。
- 2017年度助成実績 ■「未来づくり助成」8団体 / 22,816 千円 ■「まちづくり草の根助成」10団体 / 8,014 千円
- ・「ふくしま志高塾」の開講
  - ◆2016年7月27日 第1期生 講義 ◆2017年2月8日 第1期生(7名) プレゼンテーション
  - ◆2018年2月 7日 第2期生(9名) プレゼンテーション

### ③ふくしま未来研究会清水奨学金

・福島市に住所を有し、2018年3月に福島市内の中学校を卒業し、高等学校・高等専門学校進学予定の生徒で経済的理由により就学困難な世帯を対象とし、1人10万円、200人で20百万円の給付枠。

### ④「子ども食堂」助成金

・福島県内における「子ども食堂」活動者(個人・団体)を対象に運営資金総額300万円を助成予定。

## 再生可能エネルギー事業

### ①福島水力発電促進会議

・河川法等法令の改正、および既存ダムの有効活用等により、水力発電のさらなる増強を図り、水源地域の活性化を目指す。  
・2017年6月18日第1回促進会議 ・2017年12月17日第2回促進会議実施済

### ②洋上風力発電

・福島県沖に浮体式洋上風力発電事業を計画中。  
・新しい産業、雇用の創出と漁業との共生を目指す。

### ③大型風力発電

・吾妻高原牧場跡地に2MW級16基、合計32MW発電所の計画中。2021年7月運転開始予定。

### ④小形風力発電(20kW未満)

・アイルランドC & F社製日本1号機が伊達市に完成。2016年9月稼働。  
・風況の良い東北、北海道にて適地を探し、未来研究会グループ企業で現在200本を建設中であり当財団が支援していく。

### ⑤バイオマス発電

・福島市桜本地区にて2018年1月から試験運転 4月より1基40Kwで売電開始予定  
・福島舗装株式会社の敷地内に、もう1基計画中

### ⑥中小水力発電

・県内の水力資源を活用するため、JRE と協同で小水力発電所 1MW 級を2ヶ所の調査・設計を実施中。



### ⑦太陽光発電

- ・福島市水梨地区にて2.4MW級2基 合計4.8MW 2016年秋より稼働中。
- ・西郷村西の郷地区に83haの用地を取得して、約44MWを建設工事中。2020年1月より稼働予定。
- ・信夫山福島電力(株)、ジャパン・リニューアブル・エナジー(株)(JRE)とSPCを組成し、白河市大信地区に新たに約70MW計画進展中。土地取得済み(約150ha)2019年1月より建設工事に着工し、2022年1月稼働予定。
- ・2017年1月三重県津市の2MW発電所を買収、2月より稼働中。

### ⑧福島復興風力(株)への参画

- ・福島県の肝いりで、阿武隈地区に(大型)風力発電所を設備する構想が進捗している。(想定規模:2.5MW×60基=発電出力最大150MW)
- ・本構想に積極的に参画して福島復興の一翼を担うべく、新たに設立した福島復興風力(株)に資本参加すると共に、役員を派遣。

### ⑨福島大学『再生可能エネルギー寄付講座』の開設

・今後県内で増設が必要な「太陽光発電」「小型風力発電」「地中熱発電」「バイオマス発電」等の研究を一層促進し、その得られた成果が地元還元されることを願い、寄付講座を開設。(当財団・関連企業及び福島県建設業協会県北支部有志による拠出)寄付額 2億5千万円(5年間合計) 2015年11月4日第1回講演会を開催。2017年5月まで4回実施。

## 地域活性化事業

### ①中心市街地再開発計画

- ・福島県立医科大学の新学部誘致事業(建設予定地の3千㎡は当財団より福島市に2017年3月31日寄贈)2021年開設。
- ・福島駅前再開発計画:福島駅東口市街地再開発準備組合 2018年4月2日発足

### ②花見山及び市街地周辺道路整備計画

- ・花見山の創設者である、故阿部一郎氏が生前思い描いていた交通混雑の緩和、及び高齢者等が車中より花見山を鑑賞できるようにする「フラワーライン(仮称)」の整備支援。
- ・吾妻山噴火に伴う緊急時対応、及び福島市東部地区の新産業創出による地域振興のための高規格道路整備支援。
- ・福島市域幹線道路、及び相馬地区からの県立医大アクセス、相双、会津地区等への広域観光道路としての国道115号の整備支援。

### ③信夫山プロジェクト

- ・別名「御山」と呼ばれ市民に親しまれている信夫山を、花見山、吾妻山と並ぶ福島市の貴重な観光資源にする。
- ・隠れた魅力を広く告知する活動を、市内に数多くある信夫山関連団体と連携して行う。
- ・2016年4月18日「信夫山ガイドセンター」を開所。 ・2018年3月末現在の来場者数/18,548人
- ・四季折々の美しさを周知するため「信夫山フォトコンテスト」を主催(現在まで2回実施)



## 日越交流活性化

### ①日越プログラムチャーター便運航支援

- ・日越間民間人事交流を活性化し、減少傾向にある福島空港の利用者数を増加させるための支援。
- ・日越間チャーター便運航はこれまでふくしまベトナム友好協会が後援し、当財団が支援してきた。2014年から2017年2月まで13便 / 1,941人の利用があった。
- ・2018年2月からチャーター便運航。

### ②ベトナム人技能実習生受入事業の企画・支援

- ・福島国際交流事業協同組合(FKK)が活動している外国人技能実習生の受入支援。
- ・とりわけ、ふくしまベトナム友好協会を通じ友好関係にある、ベトナム国からの技能実習生を積極的に受け入れる。(2018年3月末現在の監理人数 27社/173人)
- ・将来の受入目標は3,600人とし、福島ベトナム定期便の運航を目指す。



### ③福島大学へのベトナム人留学生を対象とした奨学金制度を新設

- ・基金1億円を拠出し、学類生、院生を対象に年間9名、一人当たり年間60万円の奨学金を授与する制度を新設。
- ・2017年度は14名へ、一人当たり60万円で総額840万円を授与。

設立日 平成25年9月26日  
 目的 30年後を見据え、福島を元気にする活動を行う個人・団体の支援・助成。  
 発起人 佐藤勝三

基金 代表理事の個人資金3百万円を元に発足  
 代表理事 佐藤勝三  
 副代表理事 岡部政美(株)エスケーコーポレーション会長)  
 〃 南一美(株)zero one社長)

理事 岩下一男(元県警刑事部長)  
 〃 望木昌彦(尚志学園理事長、元県議)  
 〃 永倉禮司(元東邦銀行取締役、元福島大学副学長、現学長参与)  
 〃 菅野隆夫(元東邦銀行公務部長)

理事 但木 傑(株)ホクショー社長)  
 〃 渡辺 和弘(信夫山福島電力(株)社長)  
 〃 梅津 茂巳(事務局長 元東邦銀行取締役、元福島医大理事)  
 監事 安部修太郎(税理士)